

茶話歴談

大阪府

歴史・時代小説の同人誌

数多くの著名作家や同人誌を輩出してきた大阪文学学校。その校内で歴史小説を愛好する者たちが集まり、歴史研究会が誕生しました。やがてその会の中で、歴史・時代小説を発表する場を作ろうという声が高まり、生まれたのが「茶話歴談」です。

茶話歴談の編集部が発足したのは二〇一七年。三十代から七十代まで、幅広い世代の書き手が集まりました。元社会科教師やゲームシナリオライターなど、それぞれの身上もバラバラ。同人誌作りもほぼ初体験で、手探りでの本作りになりました。ですが、全国でもあまり見られない歴史系専門の同人文芸誌の立ち上げに全員が情熱を燃やしていました。

私たちが最初に決めたのが「何のために同人誌を作るのか」でした。ここがブレると必ず静いになり、空中分解するということは同人誌づくりの諸先輩方から伺っていました。私たちは同人誌作りの目的を「茶話歴談メンバーの創作のモチベーションを高めるため」としました。同人誌の発行というメ切があるから、年に一作は書き上げる。より

多くの読者に読んでもらい、たくさん感想をもらうことで、それを自分の創作に役立てる。読者がいることを実感することでやる気が出て、より面白いものを作ろうと打ち込む。だから同人誌を作るのだと。

実際、創刊号を作るまでは（作ってから）何度も編集部内で意見が分かれ、議論になることがありましたが、そのたび「何のために同人誌を作るのか」に立ち戻ることによって進めることができました。茶話歴談は現在四年目で第四号の編集作業を進めているところです。他の同人誌に比べれば短い歴史ではありますが、それでもここまで続けてこれたのは、最初に皆で同人誌を作る理由の原点を決めることができたからだと思っています。

歴史・時代小説は根強いファンがいる一方、現代では読



合評会

むハードルが高いジャンルになっています。小難しくて知識がないと楽しめないと思われがちです。いくら本を作っても、読者がいなければ創作する甲斐がありません。知り合いしか手に取らない本にはしたくない。そう考え、私たちは幾つもの工夫を凝らして新たな読者と出会おうとしました。

一つは、相互広告ページ。商業の文庫本のように、他の同人誌の広告を設置しました。広告を載せる同人誌にも、同じページを巻末に掲載してもらいます。こうして十を超える同人誌の広告を二ページにまとめて掲載し、同時に私たちの本を十以上の同人誌に紹介してもらうことができました。

SNSの広報活動やネットショップでの通信販売、プレゼント企画、電子書籍化、書店での委託販売など、知り合い以外の耳目に触れる活動も積極的に行いました。おかげさまでいくつもの新聞で取り上げてもらい、創刊号は瞬く間に完売、その後も重版を重ねています。

もちろん、掲載される作品の面白さがなによりも重要です。共に研鑽しあい、日々創作の腕を磨き合っています。その中の一作品を今回「文芸思潮」に取り上げていただけたのは幸甚の至りです。

コロナ禍の現在、顔を合わせての創作談議が難しい状況になり、同人文芸誌の活動は困難になっています。私たち



「文学フリマ」への出店



オンライン合評会

はチャットツールを導入してオンライン合評会を行うようになりました。うまくいかないところや残っている問題点もありますが、試行錯誤のすえになんとか次の号の編集作業をスタートさせることができました。

歴史・時代小説は、伝統を重んじる面と同等に、歴史の最新研究を反映させていく面もあり、古さと新しさの両方を楽しむ文芸活動だと考えています。「茶話歴談」という書名には、茶話のように気軽な形で歴史を楽しめる本でありたいという思いが込められています。今後も固く構えることなく、古さと新しさを両方大事にしながらこの会を続けていけることを願っています。

最後に。「茶話歴談」は新たな仲間をいつでも募集しています。今はオンラインでの活動が主流なので、関西のみならず関東や東北の方も参加しています。全国の歴史好きの創作者の皆様、ぜひともご一考ください。

(副編集長／真弓創)

茶話歴談

〒573・0087

大阪府枚方市香里園山之手町13・29

澤田聡方 朝倉昂

sawarekidan@lepton-inc.com